

令和2年度

第1回駒ヶ根市総合教育会議

会 議 録

駒ヶ根市教育委員会

令和2年度第1回駒ヶ根市総合教育会議議事日程

令和2年8月26日（水曜日）
駒ヶ根市役所本庁舎2階大会議室
午後3時30分 開 会

1 あいさつ

市長
教育長

2 協議事項

(1) 第2次駒ヶ根市教育大綱について

3 意見交換

- ・教育行政について
- ・駒ヶ根市小中学校ICT教育の推進について
- ・新型コロナウイルス感染症の状況（教育委員会）について
- ・その他

4 その他

出席者

教育委員会

教 育 長	本 多 俊 夫
教 育 長 職 務 代 理 者	福 澤 惣 一
教 育 委 員	唐 澤 浩
教 育 委 員	氣 賀 澤 知 保
教 育 委 員	木 下 健 一

市長部局

市 長	伊 藤 祐 三
総 務 部 長	渋 谷 仁 士
民 生 部 長	中 村 竜 一

事務局職員

教 育 次 長	北 澤 英 二
子 ど も 課 長	北 原 純
社 会 教 育 課 長	宮 下 る み
学 校 教 育 係 長	小 原 昌 美
教 育 総 務 係 長	山 本 和 重
教 育 総 務 係	馬 場 昭 一

会議のてん末

議事日程記載のとおり

午後3時30分 開会

○北澤教育次長 皆さん、こんにちは。(一同「こんにちは」)

総合教育会議に御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから令和2年度の第1回駒ヶ根市総合教育会議を始めたいと思います。

実は、4月下旬に予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響がございまして本日となっておりますので、よろしくお願いいたします。

本日の進行を、私、北澤のほうで行いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最初に伊藤市長より御挨拶をお願いいたします。

1 あいさつ

○伊藤市長 皆様、こんにちは。(一同「こんにちは」)

市長に就任しまして初めての総合教育会議になります。

教育は、まちづくりの大きな柱の1つとなります。皆さんと力を合わせまして、よりよいものとなるよう取り組んでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。

教育は、関わる立場によりまして様々な側面がございまして、多様な要素にあふれた分野だと思っております。全てを語ることはできませんし、その資格もございません。こうした会議へ初めて参加する機会ですので、行政、特にまちづくりを進める立場から考える教育について少しお話しさせていただければと思います。

駒ヶ根市のような地方の小さな町にとりまして、教育は地域への愛着や記憶を深めるために重要な役割を果たすものだと考えております。保育園や小中学校、それぞれの段階で、それぞれの役割があるんだろうと思います。とりわけ、私は重要な場は高校だと考えております。大学や就職、そうした選択をしてふるさとを離れることもある、多くの人が人生の最初の重要な選択をする時期となるからであります。この高校生の時期に地域との関わりを深めることができるかどうか、これがまちづくりにとりまして重要だと考えております。

そこで、ウミガメプロジェクトというものを提唱いたしております。山の中で、なぜウミガメかという向きもあろうかと思いますが、ウミガメは、ふるさとの浜辺で卵からかえり、成長に応じてやがて海へ出ていき、ある時期になりますと、また戻ってきてふるさとの浜辺で産卵をする、そういう、駒ヶ根で育った若者が、やがて様々な経験、知識を積んで駒ヶ根に戻ってきて、駒ヶ根のためにまた力を尽くす、そうしたことができれば、その若者にとりまして、地域にとっても、非常に大きな未来があるのではないかと、そう考えております。そうした思いを込めてプロジェクトを進めたいと考えております。

市内にあります2つの高校の校長先生とは、既にお話をしまして、賛同を得ることができました。ただ、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大によりまして一時期は休校ということになり、新たなプロジェクトを進める環境にはないということで、現在、具体的な進展は進んでおりませんが、今後、準備を進めていきたいと考えております。高校生に地域の良さを知ってもらおう、いわゆる、いわばそういう講座、駒ヶ根学とも言うべき講座を設けたり、地域のイベントを地域の人とともに企画する場をつくったりと、この地域を知り、駒ヶ根との引っかけりをできる

だけたくさんつくる、そうした機会を増やしていければと思っております。駒ヶ根に引っかかりがたくさんできた若者でありましたら、たとえ就職や進学によって市の外へ出ていったとしても、駒ヶ根を様々に思う機会が増えるんだろうと考えます。駒ヶ根が抱える様々な課題を知り、外へ出ていき、その解決する方策を身につけて戻ってくる、そうした日が来ることを、若者、そして私ども、町としてもつくっていきたいと考えております。こうした取組を今後進めていきたいと考えております。皆様のお知恵も頂きながら取組を深めていくことができればと考えております。ぜひ今後ともよろしく願いいたします。

○北澤教育次長 ありがとうございます。

続きまして本多教育長より御挨拶をお願いします。

○本多教育長 改めまして、こんにちは。(一同「こんにちは」)

コロナで多少時間ができたときに、山中伸弥さんと益川敏英さん、ノーベル賞医学生理学賞とノーベル物理学賞を取った人同士のIPS細胞から素粒子、対話のものをちょっと読みました。その中で印象的だったのをお話しして挨拶に代えさせていただきたいと思います。

山中さんがこんなことを言っています。今は効率が最優先される社会だが、一見遊びに見えたり無駄に見えたりすることの中に、実は豊かなものや未知なるものがたくさん隠されているのかもしれない。無駄なものをそぎ落とそうとして、そうした未来の種まで捨て去ってしまわないようにしたいものだ。

益川さんは、人間が考えることよりも自然のほうが奥が深く、バラエティーも豊富だ、自然のほうが人間の考えより奥が深い、壮大で奥深い自然に対してしっかりと目を見開き、耳を傾ける、自然から教えていただくという謙虚な気持ちをずっと持ち続けていきたいと、そんなようなことを言っております。

言いえて妙だなあとと思います。駒ヶ根市は内から育つ子どもを目標にしております。今日も話題になろうかと思えますICTを使いこなしながら、さらに駒ヶ根市が力を入れている各学校での総合を深く深化させていく必要があろうかなあというふうに思っております。ただいま市長のほうからの話で高校の探求の時間等もありましたけれども、日本教育は高校まで総合的な時間を保障されておりますので、ぜひ、そんなことを充実しながら内から育つ子どもに近づけていただきたいというふうに思います。

今日は広い視野から総合教育会議が開催されるわけですがけれども、大変お世話になります。よろしくをお願いします。

2 協議事項

○北澤教育次長 それでは、お手元の次第に従いまして会議を進めさせていただきます。

失礼ですが座らせていただいて、お願いします。(着席)

最初に協議事項でございます。

(1) 第2次駒ヶ根市教育大綱について

第1次の大綱につきましては、平成27年度から令和元年度まで5年間でありました。第1次駒ヶ根市教育振興計画を総合教育会議の中で協議いただきまして教育大綱に代えるということで進めてきております。

今回は、昨年度中に御協議いただき、教育委員会の中でも確認いただきましたが、この後、議

会へ報告をする中で、第2次の、お手元にございますけれども、駒ヶ根市教育振興計画を令和2年3月に策定しておる状況であります。これについても令和2年度から6年度の5年間ということでございます。

今回については、事務局としても第2次の教育振興計画を第2次の駒ヶ根市教育大綱に代えていければと考えておりますが、いかがでしょうか。——よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○北澤教育次長 それでは、第2次の教育振興計画を駒ヶ根市の教育大綱に代えていければと考えております。期間は令和2年度から令和6年度の5年間でございますので、御確認をいただければと思います。

表紙と裏表紙を変えたものをまた作成してお配りいたしますので、よろしくお願いたします。

3 意見交換

(1) 教育行政について

○北澤教育次長 それでは、早速ですが3の意見交換に入っていきたいと思ひます。

1つ目のポツの教育行政についてということで、初めの市長さんの御挨拶にもありましたように、教育行政に対するお考えや思いをお話いただきましたので、これについて、教育委員さんを含めまして意見交換をできればと思ひますが、いかがでしょうか。

○福澤教育長職務代理者 それでは、私のほうで願ひします。

我々は教育委員ではありますけれども、全てのことを知っているわけありませんし、そういう立場にありますが、皆さんと一緒にやっっていかなきゃやっいけないし、そういう立場で一緒に駒ヶ根市の教育というものを考えていきたいなあというふうに思っているのが基本であります。

それにつけても、昨今のコロナの影響で地域が閉塞してきているということがありまして、学校においてもそういうことは同じことであります。子どもたちは、この間から夏休みが明けて学校へ通い始めましたが、この暑さと、あと、エアコンはつきましたけれども、エアコンをつけても窓を開けて学習するという、そういう過酷な環境の中で、乗り切っていこうという気持ちで毎日学校へ通っております。そういうことは、やっぱり我々大人も、実際に現場を見てみないと分からん部分がありますけれども、極力そういう部分には目を向けていきたいなあというふうに思っております。

それから、今、駒ヶ根市がおかれている少子化の問題については直近の問題じゃないかなあというふうに思ひますし、学校へ行ってみると、コロナの中で、かえって少子化がソーシャルディスタンスを保てるというようなことで、教室の中の空間が保てるというような皮肉な状況ですけども、そういう環境を見てきました。これから子どもが少なくなって、学校を今までの40人学級で保っていくのが果たしていいのかどうか、そういう部分については、やっぱり市政、いろいろな考え方はありますけれども、市長さんとして、少子化に当然歯止めもかけなきゃいけないんですけども、対応策っていうのはまた別に考えていかなきゃいけないと思ひますが、少子化になって、市政を——市政というか、学校をどういうふうに運営していくかということについての何か考え方がありましたらお聞きしたいなあというふうに思ひますけれども。

人口減少についてでもいいですけどね。

○伊藤市長 昨年の駒ヶ根市の出生者、赤ちゃんの数、これが205人でしたっけ？確か、それぐ

らしい数になっているんです。

僕ら、赤穂小学校、中学校へ通っていた頃が、小中、赤穂だけで8クラスありましたので、1学年で、そうですね、300人強の子どもがいたわけです。僕らよりもう1つ上の世代ですと、もっと多かったわけですが、それが市内を合わせても200人前後という数字に落ち込んでいるのが、これ、現状です。

おっしゃるように、そういう少子化に歯止めをとということですが、日本全体の人口が減って行く中で、駒ヶ根市だけがその人口を増加に転じるというのは、なかなか考えにくい状況ではあります。ただ、子育てがしやすい環境、そうした環境づくりというのは必要になってくると思います。

一方で、この少子化の原因というのが世界的にもはっきりしないというのが、また、これもまた現実として、先進国になると、なぜか少子化が進んでくる。なぜそうなるのかという原因は、いろいろ言われますけれども、これだという原因がよく分からない。日本の少子化も、なぜこんなに進んできたのかというのもよく分からないというのが正直なところではあります。

ただ、まちづくり、行政の立場からすれば、そうした現実を受け止めつつ、どこか、いずれにしてもここに暮らす子どもたち、親が楽しく過ごせるような方策を考えていかななくてはいけない、これはいつの時代も変わらないことだと思っておりますので、そうした工夫は重ねていきたいと思えます。

人が増えない中で、どういう教育の場をつくっていくのか、それは、これまでのやり方とは違う価値観で取り組んでいく必要があるだろうなと思います。少人数であることを逆に生かしてきめ細かな対応をすとか、施設の1人当たりの面積は逆に増えていくわけですから、そうしたものを教育環境の充実の方策に変えていくとか、施設とソフトと両方の面で子どもが少なくなっているという現実に対応した方策を考えていきたいと思えます。

○福澤教育長職務代理者 今、こういう環境になって、予算のかけ方のウエイトが、大分バランスが変わってきたりしていますし、国のほうでも、GIGAスクール構想などでどんとお金がこちへ来る部分があったりするんですけども、殊、コロナのことについては、国のほうがそんなにはっきりしなくて、様子を見ている、自治体だとか知事だとか、地方自治体が一生懸命頑張っているという環境が見えるんですね。ですから、駒ヶ根市も、それぞれ、やっぱり国を待っていてはできない部分もあったりすると思うんです。やっぱり、今年の場合は学校に急に休校要請が来て、これは、あれよあれよという間に休みに、休校しなきゃならないということになったわけですが、あのときも、今考えれば、もう少し真剣に教育委員会の中でも考えたほうがよかったのかなあ、検討したほうがよかったかなあっていうような、今さらながらに思っております。何か国の力がうんと働いたような感じがして、冷静になってやっぱり考えていかないといけないっていうふうな感じは、今になって思います。これからも、ぜひ、そういう変化のときには、一旦やっぱ市の中でもんでもらって、それで教育委員会も一緒になってもんで方向性を出していきたいなあっていうふうに思いますが、そういう部分について、ぜひ市長さんも御協力をお願いしたいなあっていうふうに思います。

○北澤教育次長 少子化の関係は、今も出たんですけど、幼児教育の無償とか、あとエアコンも早急につけていただいたりして環境を整えてはきているんですが、全体的な流れで少子化的な部分が進んでいるのが現状で、その中でも市長部局と共同して教育委員会も検討していく必要が

あるかなと思います。

市長さんのほうからウミガメプロジェクトの話が出たんですけれども、教育委員さんの子どもさんと、今、高校とか大学へ行かれています方もいらっしゃるんですが、その関係で何か御意見とかがありますか。

○唐澤委員 さっき市長さんの御挨拶の中にあつた言葉で駒ヶ根への引っかかりが幾つもあるといいっていう、その引っかかりっていうのは、なるほどなと思つたんですが、うちの子どもは、もう一人は東京へ出て公務員になつたんですけれども、公務員になるんならなんで地元でならないんだって思うんですけれども、やっぱり若い衆は都会がよかつたんだらうと。もう一人の子どもは、いずれここへ帰ってくればよいということで出ています。私自身も一回進学しましたが、帰つてきたんですけれども、何があつたかっていうと、本当は思い出せないですね。やっぱりちっちゃいときからの何か心の中にあるものがたまっていくんじゃないかなと思います。それが、そういう引っかかりだと思つたんですが。家庭環境とか、そういうことがいろいろあると思います。親が地域と関わっている関係だとか、そういうのもすごい大事だと思います。ちょっと、それが思つたことなんですけれども。

○北澤教育次長 上伊那でも郷土愛プロジェクトとか、そういった部分で郷土愛を育むものを今進めているんですけれども、そういうのも交えてやっぱりやっていく必要があると思います。

○木下委員 じゃあ、すみません。せつかくの機会ですのでちょっとお伺いをしたいんですけれども、市長さんのウミガメプロジェクトのやつも、高校生の地域への愛着の醸成ということで、うちも今年の春まで高校生がおつたんですけれど、取りあえず出てしまつたんですけれども、今、学生として、今コロナの関係で学校に通えないでいるものですから、学校へ通う意味というものも、目標というものも、ちょっと見失いかけてちゃつているところがあります。幸い、今、教育長のお話をお聞きしたところ、市内の小中学生は、夏休み明け、元気に通つてくれているということですので安心をしていますけれども。

お話のあつたとおり、駒ヶ根市内には2校、高校があるわけなんですけれども、市内の中学生の多くが、またこの高校へ入るわけですよ。そうやって考えると、もうちょっと年代を下げた深掘りして考えたときに、じゃあ、駒ヶ根市でこれから育ていく子どもたちは、これから地域とどういう関わり方をしていったらいいのかな、もし、これを学校っていう単位で考えてみますと、どういう目線でいくと、我々、地域への愛着でしたっけ？地域への愛着の醸成っていうもののお手伝いがこれからしていけるのかなあということをお話していただければと思います。お願いします。

○伊藤市長 ありがとうございます。

ずっとこの町で暮らす、それも選択肢ですし、1回外へ出ていろんな勉強をする、経験を積む、それも選択肢だと思うんですよ。いずれにしても大事なことは、駒ヶ根に、先ほど引っかかりというふうに申し上げましたが、駒ヶ根を思ういろんな機会、手がかりを僕らが提供できるかどうか、その量によって子どもや若者が駒ヶ根に対する思いが変わってくるんだらうと思つています。

昨日、伊那市である夫婦に会いまして、その方は東京から移住してきたばかりの人で、どこだったか、青山か、都心でレストランをやつていた御夫婦で、このコロナの影響もあり、それで、

自分の子育て、子どもたち、まだ幼い子どもを抱えて、これから先どこで暮らしたらいいだろうかということで、ずっと移住先を探しておられて、駒ヶ根も候補だったようですが、残念ながら伊那市を選ばれたんですが、決め手になったのが、やっぱり環境ですね、伊那谷の持っている環境、自分の子どもをどこで育てたいかと考えたときに、東京よりは、やっぱり伊那谷がいいなあと思って移住されて、仕事はこれから探すんだというふうにおっしゃっておられましたけども、そういう方たちが確実に増えているわけです。駒ヶ根市内でも、いろんな問合せが非常に増えていきますし、長期的に見れば、地方で暮らすという選択肢は非常に魅力的なものになりつつあると。

私も東京で暮らしてきて、こちらへ戻ってくると、通勤の便利さや、いろんなもの、手に届く範囲にいろんなものがあるというこの暮らしは、都会の暮らしと比べると格段に快適なんですね。そういうことに気がついていらっしゃる方がたくさん、今、増えているわけです。

問題は、そうすると、僕らのほうの受け入れる準備ができていのかどうか、また、自分たちの町に対してそれだけの誇りを持っているのかどうか、情熱を持っているのかどうか、その量によって、来られる方、あるいはお子さん、若者の量も比例してくるのではないかなあと思います。僕らが情熱を持って、誇りを持って子どもや若者に接していくことによって、その熱が子どもや若者に伝わって、駒ヶ根は自分のふるさとになる町なんだというふうに思っていけることができれば、仮に少子化が進んだとしても、ここで生まれた若者がここに帰ってくる、そのリターンが多ければ多いほど少子化の影響はどんどん小さくなるわけですから、そのためにも自分たちの誇り、情熱を子どもたちに伝えていくということが多分必要なんだろうと思います。

○木下委員 我々が魅力ある駒ヶ根市になるべきであるということかなと、子どもたちにも伝えられることはちゃんときちっと伝えていくということが大事だということですね。承知しました。ありがとうございました。

○北澤教育次長 ほかには、この件について意見等があれば……。特にいいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○北澤教育次長 では、これについては、これで終わります。

（２）駒ヶ根市小中学校 ICT教育の推進について

続きまして、駒ヶ根市小中学校のICT教育の推進について、資料1で小原係長から説明をお願いします。

○小原学校教育係長 それでは、よろしくをお願いします。

まず、駒ヶ根市小中学校ICT教育の推進についてということで御説明を申し上げますが、ちょっと資料の説明の前に、昨年12月頃からGIGAスクール構想という言葉が教育現場で聞かれるようになっておりますが、このGIGAスクールについて一応確認させていただきたいと思います。

資料はございませんが、御容赦いただきたいと思います。

従来、国は、2018年に学校のICT環境整備に係る地方財政措置として、2018年から5年間で児童生徒3人に1つのコンピューターを用意しなさいと、そして大型提示装置を整備して無線LANを校内に100%整備するという方を方針として掲げておりました。

しかし、昨年12月、GIGAスクールという言葉の下に国がICTの推進を始めまして、1人1台端末を導入、そして、その端末がストレスなく使えるLAN環境を整備するというので、

令和元年度から5年間の間に整備を、もう1回仕切り直しをするということで始めたわけです。

しかし、その後、コロナウイルスが蔓延する中で休校措置が取られ、GIGAスクールの加速ということで、令和元年度補正予算、令和2年度補正予算に1人1台端末、LAN整備、その他の諸々のICTの関わる予算が盛り込まれて、本格的な推進が始まったということでございます。

それで、その背景の一つとして、コロナの影響での推進もあったんですが、小学校の学習指導要領、その改定の中で情報活用能力というものを高めなさいということもあって、GIGAスクール構想を駒ヶ根市としても取り入れ、本格的に推進するということになりました。

それで、資料を御覧いただきたいと思いますが、まず目的でございます。社会構造が変化する中、Society5.0時代に生きる子どもたちの未来を見据え、子どもたち一人一人に個別最適化された学びを提供し、求められる能力の育成を実現するため、学習手段の1つとしてICTを活用した教育を導入するということを掲げております。

まず、先ほどから申し上げているとおり、GIGAスクール、端末とネットワークの整備がありますが、これは2つの柱とされておりまして、まず1つ目、小学校1年生から中学校3年生への1人1台端末環境整備であります。駒ヶ根市は端末を2,847台、児童生徒に2,655台、教師用は192台ということで整備をいたします。小学校1年生はiPad。小学校3年生以上はChromebook。事業費は1億7,398万5,000円となります。

この端末の選定、学年によって違っておりますが、これは小中学校の情報科担当の先生に集まっていたいただいて協議して決めたものでございますが、まず、小学校1年生におきましては、端末に慣れるということで、簡単に触れるタブレット型のiPadがよろしいということで、これにしたわけでございます。小学校3年生以上は、今回のGIGAスクール構想の中でとても注目された機種となりましたChromebookという、グーグル社のChromeOS、それを搭載したコンピューターを用意するんですが、これの学校現場での利点としましては、まず起動も早いということと、共同で作業する、学習するというにたけた機種であるということでございます。例えばですが、先生が小テストを作ります。Chromebookの中で小テストを作ります。それを児童生徒に配信しますと、それを児童生徒が答えて、その結果が即時に反映されます。そこで設問ごとの回答率が分かるようになっていて、間違いが多かった問題をまた改めてその場で先生が児童生徒に教えるということが出来る。従来だと紙で先生が配って、それを回収して、丸バツをつけて、後々先生が渡すということだったんですが、それが即時でできるとか、そんな利点がとてもあるという機種でございます。そんなものを整備します。

次に、②番の校内通信ネットワーク、校内LAN整備でございますが、これは、普通教室と特別教室で高速インターネット利用ができるように環境を整える、それと先ほどの端末が入れられる電源キャビネットを整備するものでございまして、1億6,500万円となっております。

市内の7つの小中学校、現在でもネットはございますが、これは10年ほど前に整備したものでございまして、現在では通信速度が遅いなどの問題もございます。今後は動画だとか遠隔授業やなんかも増えていく中で、高速のネットワークが求められているということでございます。

続きまして、右側の③番 家庭学習のための通信機器整備ということで、これはモバイルルーターを369台、1,033万2,000円ということで、通信費を含んでおりますが、用意いたします。これは、端末を使った家庭学習が必要になったときにWi-Fiがおうちにはない家庭で御利用いただけるモバイルルーター、どこでもつながるシステムということで用意するものでございます。

また、普段、学校では、教室を出て屋外で授業するような校外授業のときにモバイルルーターを持たせて、それで授業をするということも可能であるというふうに考えております。

4番目の学校からの遠隔学習機能整備ということ、これは、撮影用広角カメラ、マイクなど、7校分で24万5,000円でございますが、これは、やっぱり休校になったときに家庭と学校をつなぐ、学習のやり取りが円滑にできる環境を整えるためにそろえるものでございます。

⑤番の大型提示装置の設置であります。これは、小中学校の普通教室、特別教室へ設置するということになっていまして、既に令和元年度、2年度で中学校の全普通教室に設置が済みました。令和3年度以降は小学校に設置を予定しております。これは、電子黒板といわれるもので、黒板の板書をするとともに、電子黒板に映し出された写真や動画を見ながら授業を進めていくことができるものでございます。

それで、こういったものが整ったときに、じゃあ1人1台端末でできることということでございますが、まず、一斉学習は、1人1台端末じゃない環境だと教師が黒板等を用いて説明していたものが、1人1台端末、また大型提示装置なんかをそろいますと、教師は授業中でも一人一人の反応が把握できる、子どもたち一人一人の反応を踏まえた授業が可能ということで、ちょっとA3の右下の写真、この一番左が写真ですね、これがそのイメージなんですが、先生は前のほうで、いわゆる大型提示装置というかモニターを使って説明をしております、子どもはそれを手元で問題を解いていく、または先生のところを見ながら学習したりという姿でございます。こういった中で、こういう使い方ができるということです。

個別学習としましては、全員が同時に学習するということですが、1人1台端末になりますと、それぞれが同時に別々の内容の学習が可能ということで、一人一人の教育的ニーズや学習状況に応じて個別学習が可能ということで、これは下の絵で言いますと一番下右のところになります、学習の進度に応じて、それぞれの子どもが同じ問題なんだけど自分に合った質問をしながら先生が指導するということが可能です。

最後の共同学習としましては、グループ発表なら可能だけど自分独自の意見は発信しにくい、あるいは、控えめな子はなかなか発言できなかったのが、1人1台端末で共同の授業、共同作業ができる、それと一人一人が記事や動画を集めてきて独自で自分の観点で情報が編集できる、各自の考えを即時に共有し共同編集ができるということで、全ての子どもたちが1つの課題に取りかかることができるということで、一人一人が学びに参加できるということになります。

学習の例としましては、基本的には、やっぱりインターネットを使った調べ学習、そういったもので記事や動画などの情報を集めて生徒が授業をしていくというものです。

表現、制作ということで、文書作成、プレゼンソフト、ワードとかパワーポイントのようなものですが、そういったものを利用して一人一人が考えをまとめると。

個別学習としては、一人一人の学習状況に応じてデジタル教材を活用したきめ細やかな個別学習対応ということで、今回の例えばChromeにしてもiPadにしても、インターネットにつなげばいろいろな教材っていうのがありますので、そういったもので学習していくということになります。

遠隔教育ということで、臨時休校時においては、映像コンテンツや担任による動画配信などの工夫で、より効果的な学習教材の提供が可能になります。

また、学習以外でも子どもの健康状態や学習の進捗状況や生活指導、学習相談にも対応可能と

ということで、多様なつながり方ができるということでございます。

このようなことができるかとされているものを、今後、学校の先生、特に情報担当の先生、または校長会を通じまして皆様方と議論しまして、駒ヶ根市で使えるものとして進めていきたいなあと思っています。

ただ、やっぱり今後の課題といたしましては、新しい機械の導入、何のときにもそうですが、特に今回は、Chromeという新しいものを入れる中では、先生たちの技術の向上というのがとても課題になると思います。あと、情報もある、情報漏えいとか、そういったものですが、そういったものというのを充実していくことも重要だと思います。これにつきましては、端末導入と同時に研修を受けるということも一つのパッケージでありますので、今後、先生たちにはお時間頂きながら研修を進めてやってまいりたいと思います。

このようなことは児童生徒のためにもなると思いますし、あと先生の授業準備だとか成績処理っていうのも、きつとこういうICTを使うことで負担軽減になるので、児童生徒の教育及び先生たちの働き方改革という面でも、こういったものを使っていきたいと思います。

以上でございます。

○北澤教育次長 ただいま事務局よりICT教育の推進と状況について説明がありました。この説明に関しまして意見交換をできればと思います。教育委員さんのほうからお願いします。

○唐澤委員 お願いします。

国の政策っていうことで、お金も大分頂けるということなんでしょうけれども、やっぱり3億5,000万円以上結構なお金を使ってやることでも、こういった分野の教育は、日本は相当世界から遅れているっていうことで、やっていくのはいいことだとは思いますが、こういった環境が一応そろいます。そうしたら、その先を、今も説明ありましたけれども、大分先生たちも今までと違ったことの負担が増えると思うんです。なので、技術的なサポートだとか研修みたいなものは本当に必要になってくると思います。

それから、あと、どのような内容がこういった授業に適当なのかっていうのも、学校もそうでしょうけれども、教育委員会の中でも、そういう専門の方がいらっしゃるかわかりませんが、教育委員会にもそういう専門の、こういう方針をつくっていくということがすごい大事だと思うんですけれども、市長さんは、こういったのを進めていくのにどのようなお考えをお持ちなんですか。

○伊藤市長 地方の学校が成長していく1つの方策としては、ICTは欠かせないツールだと思っております。

今回のコロナによる臨時休校の期間におきまして小中学校のお子さんたちには大分不自由な思いをさせたわけですが、その際に家庭学習をオンラインでできないかというような声も頂きましたが、残念ながらそういう設備が整っておりませんでしたので、ケーブルテレビ等を使ったやり方しかできませんでした。それが現状であります。

今回、こうしたツールを導入することによってオンラインの環境が整ってくると、問題は、それに何を乗せるかということでもあります。何においても、スキルというのはそれぞれに見合ったものがあるわけです。ふさわしいものが必要なんですね。対面授業のスキルがそのままオンラインのスキルに適用できるかという、多分ちょっと違う話になるんだろうと思うんですね。大手予備校などの例を見ますと、オンラインの授業で人気を集める先生というのは、やはりツールを

使いこなすのにたけた技術を持っている先生方がそういう人気を集めていくということですので、駒ヶ根市としても、このツールに何を乗せていくか、どういうやり方で乗せていくかということについては、いろいろ研究をしていきたいと思います。そういう指導者、サポート体制も併せて整備をすることになっておりますので、使いながら、走りながら考えていきたいと思っております。

○唐澤委員 うちにも実際に大学生がいて、今年オンライン授業をしているところをやっぴり見たんですが、授業っていうかね、パソコンを見て、あと課題も出されて、それもパソコンを使ってレポートを提出するとか、それはそれで今風なんだろうっていうか、適当なことなんだろうけれども、こうなってくると学校は要らないのかなっていうのは、本当にそういうこと、急にそうやって思ってしまうところもあります。それに、学校の先生も、やっぱり今言われるように、偉い教授でも、そういうリモート授業ができない教授はもうお払い箱みたいになってしまうとか、すごい世の中が変わっているなっていうのを感じます。なので、今言われるように、その内容、これで行っていく授業の内容の検討はすごい大事なことだと思います。お願いいたします。

○北澤教育次長 ICTのサポートする人とか指導者についても機器の導入と並行して今検討しているところであります。やはり使えないとただの箱になってしまいますので、そういったものを十分生かしてスキルを上げていくことが必要かなと考えております。

あと、そのような内容とか、そういった部分では、基本的な部分は変わらないんだと思いますが、その学習の手段という部分の御意見を頂ければと思います。

○本多教育長 先ほど教育委員さんたちには定例教育委員会で少し触れたんですけども、日本の学校そのものがDX、デジタルトランスフォーメーションが非常に遅れているということが言われています。情報技術の浸透が人々の生活をあらゆる面でよい方向に変化させるっていうことなんですけれども、アメリカや中国に比べたら20年から30年遅れているんじゃないかなんて言われます。今話題になっているようないろんなツールとして利用したりするということなんですけれども、教育体制自体がそういう進んでいるところと違います。というのは、私も現場にいたときに、いろいろ言って申し訳ないんですが、昭和54年から教員になりましたけれども、教育課程がもう4回変わっています。今度変わるその前の前のときから総合的な学習の時間をゆとりと充実ということで打ち出してあるわけですね。それが、マスコミがゆとり教育とか、ゆとり失敗だとか何とかっていうことで、ゆとりと充実という充実を抜いてしまったから、目先の詰め込みだけの教育を変えただけなんですよね。だから、ここ30年間で、変えても結局この時間の中に何を詰め込むかっていうことしかやっていなかったんだけど、結論で何を言いたいかっていうと、私が1人ここで吠えていても教育課程は変わらないんだけど、その教育課程でやっている中でもICTを使うと大変に便利だっていうことは、現場の先生方も目に見えています。例えば数学とか理科のような実験であるとか図形みたいなもの、例えば教科を挙げると、よくテストに出るのは、サイコロの展開をしたときに、その展開図を組み立てるとどんな形になりますかとか、この積み木の向こう側にはあと幾つ分ありますかというのは、作ってこうやって動かせばわかりますけれども、その場で想像しなさいっていうのがあるわけですね、例えば。そんなようなもの、空間認知だとか、そんなようなものとかグラフだとかっていうようなものは、もういち早くこれを取り入れればありがたかったのになあっていう思いが実はあります。もう箸にも棒にもっていう子がこういうツールなんかを使ったりすれば、それはそれは喜ぶだろうなっていうふ

うな思いがありますので、遅れてはいるんだけど、こういう便利なものに追いつき追い越せの気持ちであるのであれば、それを先生方は研修を積んで、これがコロナのおかげで早く入るので、よしとして、組み込み方をうんと工夫してもらいたいなど。

一方で、日本中が中途半端で終わった、今もまだ総合なんかより評価は5教科っていう言い方、私あんまり好きじゃないんですが、そっちを集中的にやればいいみたいな、どここの大学入った、でも、出ても企業で何の役にも立たないという人間はもう要らないので、これをチャンスとして、子どもたちの自由な発想とか、そういうものを生かせるような、それは、教科、道徳、特活、そういうものが本当によくできないと本来の総合の力は発揮できないんで、そのところに織り込んで、さっきから言ってるように内から育つ子どもになるための一助に徹底的に使えばいいんじゃないかなっていうふうに思っています。有効活用すべきだなというふうに思います。

○北澤教育次長 ありがとうございます。

ICTについては、やはりよりよい部分を見据えて研修していくのが重要かと思います。

ICTの推進について委員さんのほうからありますでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

（3）新型コロナウイルス感染症の状況（教育委員会）について

○北澤教育次長 では進めますので、よろしくお願いします。

続きまして新型コロナの対応についてであります。新型コロナウイルス感染症の状況、教育委員会の部分になりますけれども、資料2を説明しますので、よろしくお願いします。

資料2ですけれども、次第についている資料の下のほうですが、まず、1の子ども課の対応については、（1）の市内小中学校臨時休校について、このとおり実施してきておまして、8月1日から夏季休暇ということで、8月の17、18、19日、学校によって違いますけれども、そこまで夏休みとして、今現在、学校が始まっておる状況であります。

コロナ感染症対応、除菌等をして、学校で先生方も含めて対応しておる状況でございます。

（2）（3）（4）の子ども交流センター、保育園、幼稚園について、また健診等については、感染のリスクを下げる取組をして継続して実施しております。

2の社会教育の部分であります。1の公共施設、公民館、文化施設、文化センター、体育施設等でございます。

休館については御覧のとおりで、5月31日まで延長されて、6月1日以降、チェックリストを作り、また検温等をして対応してきて、7月1日より文化センター大ホール、条件をつけて対応してきている状況であります。ただ、大ホールについては、やはり、こういう状況でありまして、なかなか利用控えで控えているような状況でございます。

（2）の各種イベントの見直しについては、ハーフマラソンを中止してリモートマラソンへ移行し、また成人式を延期、また各種イベントの中止等を行ってきておるところであります。

別添えの資料で令和2年度に教育委員会の主要事業の取組の中にも取消し線に変更になった部分や太字で追加になった部分等の記載がありますので、お配りした資料でございますので確認をしていただければと思います。

こういったものを行いまして、新型コロナウイルス感染症に対する対応について意見交換をできればと思います。

○**氣賀澤委員** お願いします。

うちの子は中学3年生で、いろいろな行事も縮小されたりなくなったりしながらですけど、楽しく学校には行っています。

このぐらいになったらこういうことができるとか、このぐらいだとこんな行事は大丈夫とか、そういうことがちょっとよく分からなくて、多分県からののが下りてきて、駒ヶ根市ではこうとかっていうふうにはなると思うんですけど、もしもこの先、またはやったりして休校になるとか、そういう感じになるのは、どういうときになるとか、どうなったときにこうなるっていうのがちょっと分からなくて、多分、やっぱり私も、そういうのは心配していることだと思います。

あと、受験に対しても、ちゃんと受験ができるのかとか、そういうのがちょっとよく分からないので、そういうところをはっきり、こうなったときにはこうとか、こうなったときにはこうなりますっていうのが早く分かればいいのかになって思いながらいますけれど、その対応なんかを、ちょっと駒ヶ根市ではこういうふうを考えているっていうのがあれば教えていただきたいです。

○**伊藤市長** 基本は、まずは国の判断があるわけですよ。緊急事態宣言が全国に出されたときには、それに従ってそれぞれの各県、各自治体が対応したということで、ああした事態になったわけです。それが解除されて現在に至っているんですけども、ですので、今後、国が、今第2波と言われる流行の状況と判断していくのか、専門家を交えた判断がどうなるのかというのが、まず第一にあるだろうなあとと思います。

その上で、また県も地域ごとに、今、県の基準を設けて各保健所単位の地域ごとに警戒レベルを設けております。上伊那の場合は、今、県のレベルで言えば2という段階ですので、そういう状況にあるということです。

こうした国、県の判断がどうなっていくのかというのを、まずは、市としては見守っていくということになるかと思えます。ですので、学校行事等は、そういう中で判断をしていくということになると思えます。

流行の状況がいつどうなるのかというのは、現時点で確たる見通しを持っておられる方が国も県も今のところありませんので、正直申し上げて、いつになったらどうなるかっていうのは、現状ではなかなかはっきりしないというのが、残念ながらそういう状況です。

市独自の判断として様々な状況を見ながらやってきた部分はありますけれども、修学旅行、あるいは運動会等、大きな行事については、やはり周囲への影響もありますので、いろんな要素を見ながら慎重に判断をしていかざるを得ないというのが現状です。

駒ヶ岳への登山は、今年、中学生は中止になりまして、代わりに秋にロープウエーで登るという事業を市としては設けているわけです。そうしたできることは全力を挙げて子どもたちのために今後も取り組んでいきたいと思えます。

まずは、感染拡大を防ぐ、子どもたちの安全を確保すると、そういう観点を大事に取り組んでいく考えです。

○**北澤教育次長** 今までの休校についても、いろいろ、国、県、また上伊那の状況を見て、市の感染防止対応等、相談しながらやってきている状況で、具体的な修学旅行とか運動会等、校長会とか、校長先生たちに臨時で集ってもらいまして決めてきている状況で、今話に出ました修学旅行についても県外っていうのはなかなか難しくなってきました、県内にという検討はしているんですけども、県内も北信、東信のほうはなかなか難しい状況で、今、教育委員会と各学校と

協議しながら進めておる状況であります。そういったわけで、こういった目安をはっきりっていうのはなかなか判断が難しい感じもありますけれども、お願いしたいなということと、3年生の受験については、今のところ、今の状態だとやる予定ではあると思いますが、ここの情報は流れてきていないところもあるんですけれども、教育長さんからあれば。

○**本多教育長** 今のおりで、情報はまだ流れてきていませんが、6月の最終でしたっけ？受験の範囲はここまでっていうのが明確に出されました。なので、出題範囲といいますか、それは、こうだったのがここ部分のここまでっていうのははっきりしているんですけれども、今年の3月にコロナがはやり始めたときの入試の臨み方が参考になろうかと思います。それより幾らか厚い手当になってくるのかなあというように思うんですけれども、それ以降、科目はこうだっていう以降は、まだちょっと情報が出ていないので、不安かと思いますが、見守っていただきたいと思います。

○**唐澤委員** こういう状況なので、やっぱり、よく言われたように、一番は国のリーダーの顔が見えないというのが一番言われています。リーダーがはっきりしてくれないから、みんな自分で考えなくちゃいけないし、考えた結果が、また周りからいろいろ言われるとかがありますので、元の国が、今言われるように基本なんでしょうけれども、地方でできることは、決められることは決める、国に決めてほしいことは、もう決めてほしいという、そういうこと。やっぱり市だったら市長さん、教育だったら教育長さんとか、そういうリーダーが名前、声を出してみんなの前で言うっていうことはすごい大事だと思うんですが。

あと、もう一ついいですか、コロナのことで。

昨日、文科大臣がメッセージを出したんですけど、やっぱりコロナの差別、誹謗中傷、差別とか中傷しない、個人だとか学校へ、そういうのをやめてくださいっていうのを、子ども向け、教員向け、保護者向けに、昨日そういうメッセージを出していましたが、こういうときは、本当に、コロナは駄目、怖いものは怖いんですが、正しく知って正しく恐れるっていうか、その中で、人権を考えていくすごいいい機会だと思うんです。コロナ禍が始まってから一番嫌なのがそういうニュースを聞くことで、駒ヶ根市の中でも1回そういう患者さんが出てしまって、その人がいろいろどうだこうだといううわさがいっぱい出ましたので、やっぱり駒ヶ根市としても、そういうところを、市もそうだし、学校の中でそういう人権を考える機会にぜひしていただきたいと思います。

以上です。

○**北澤教育次長** 人権について、やっぱり誹謗中傷があったりしてはいけないので、人権の事務局も社会教育にもありますし、学校の関係、校長会でも大事なことだということで通知を出したり、話合いをして周知徹底をしているところです。ただ、なかなかデリケートな部分なので、継続してできればと思いますので、よろしくをお願いします。

○**伊藤市長** 全戸配布のチラシですとか、それからケーブルテレビを使ってメッセージを出すとかいうのは、繰り返しやってはおります。これは、なかなか目に見えて成果が上がる話でもありませんので、引き続きいろんな機会を捉えて呼びかけていくことを続けていきたいと思えます。

○**北澤教育次長** コロナに関しては御意見よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

(3) その他

○北澤教育次長 その他の全体の中で何かございましたらお願いします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○北澤教育次長 では、時間となりましたので、会議についてはこれまでとさせていただきます。頂いた意見については、事務局で検討しまして進めていければと思います。

それでは、以上をもちまして第1回の総合教育会議を閉じたいと思います。

ありがとうございました。

午後4時36分 閉会